

白馬岳&清水岳山行報告

【山行日】 2015年 7月 31日～8月2日(金～日)
【集 合】 岩舟支所P AM 4:00
【費 用】 マイカー2台 : 25,600円
【メンバー】 CL:鈴木 大西、石田、岩淵、香川、関、
中田、藤原、松館、渡辺

31日 晴れ 猿倉登山口から、大雪渓を登り白馬山荘へ

岩舟支所P4:00＝白馬第5 駐車場 6:45/7:00＝猿倉
7:20/7:45～白馬尻小屋 9:00/9:15～葱平 11:30/12:00～
村営頂上宿舎 15:00/15:20～白馬山荘 15:40

“憧れの山へ”

長い登山歴の中で、登れずにいた山はいくつかある。
けれど一番心に無念さが残っていた山・・・それが白馬岳だった。
何回か計画があったが、台風や雪崩の為に中止になりそのチャンスを失っていた。



今回の山行で、大きく気持ちが動いたが反面しばらくCランクや雪渓歩きから遠のいていたことで、全く自信がなかった。

そんな動揺する私の背中を押してくれたのが、ともちゃんでした。

初日の大雪渓を登り切れればどうにかなると思い決心した。

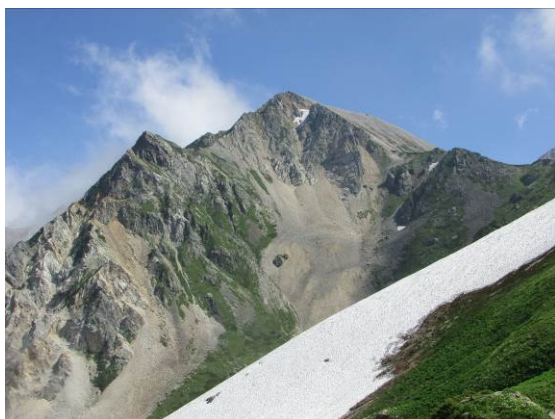
猿倉から歩き出し、1時間くらいで白馬尻小屋へ着いた。ここからは大雪渓が良く見える。

小屋でトイレを済ませ出発し、大雪渓手前の岩場でアイゼンを付ける。

天候は良好、金曜日のせいか思ったより登山者が少ない。

はるかかなたの前方を見ずにただひたすら一歩、一歩、歩く。心配していたアイゼンの重さもさほどに足に感じられずほっとした。途中、何組か追い抜かれるが、気にせずマイペースで登って行く。

やがて2時間以上の道のりをとうとう登りきった。“ヤッター～”と葱平でアイゼンを外し心の中で喜んだ。



ところが、ここからが傾斜が

さらにきつくなり、足は上がらないし息も切れてしまう。石室手前で昼食となり、ラーメンやキーウイを美味しくいただき、体を休めることが出来た。

そこから白馬山荘を目指すこと2時間半。雪渓を登り終えた安堵感と重い足取りにはかなりこたえた。

けれど見渡せば右も左も高山植物の群落、色とりどりの花が宝石をちりばめたように目に飛び込んでくる。その艶やかさにしばし足を止めて疲れを忘れさせてもらっ



た。

見上げると、真っ青な空に岩峰が聳え「これぞ北アルプス！」という景色に元気をもらう。やがて私達を迎えてくれた白馬山荘は、山小屋とは思えない程立派な小屋、そこからの眺望がこれまた素晴らしい！雲一つない晴天の中に剣岳から立山連峰、遠くには槍ヶ岳まで一望できる。山脈の中へ沈む夕日を見ながら、今日一日無事に歩く事ができた感激で胸いっぱいになった。スーさん、ともちゃん、本当にお世話になりました。一緒に登った皆さんありがとうございました。あとの二日間、自分のベストだけを考えて行動するつもりです。

皆さんには申し訳ありませんが、甘えさせて下さいね。

Noriko Isida 記

1日 快晴 白馬山荘から清水岳のお花畑を楽しみ、杓子岳・鍬ヶ岳経由で鍬温泉小屋へ

A班: 白馬山荘 5:10～清水岳手前鞍部 7:10/7:20～頂上宿舎分岐 9:10～杓子岳 10:20～鍬ヶ岳 11:20～鍬温泉分岐 11:50/12:25～鍬温泉小屋 14:50

B班: 白馬山荘 6:00～白馬岳 6:20/6:40～白馬山荘 7:00～杓子岳 8:20～鍬ヶ岳 10:20/10:50～鍬温泉分岐 11:20/12:15～鍬温泉小屋 14:50



A班：白馬岳二日目。まずは白馬山荘付近から御来光を見る。

この日は健脚A班とのんびりB班に分かれての山行、A班は朝5時頃に準備運動をしてお花畑の待つ清水岳へ向かう。

まずは目の前の旭岳を巻いて行くのだが、巻き道に辿り着くまでの雪上に撒かれたベンガラ(赤い粉)が薄くなっていてルートを誤ってしまう。

想定していた巻き道の位置よりも上の方に出たにも関わらず、さらに上へと向かってしまった。

しばらく登りスマホのGPSアプリで現在位置を確認する

とルートから離れていることが判明、しばし下ることで巻き道を見つけることができた。

清水岳へ向かって裏旭岳を抜けると、コマクサ、イブキトラノオ、ダイヤモンドソウ、ウサギギク、ニッコウキスゲ、ミヤマキンポウゲ、クルマユリ、ハクサンイチゲ、ハクサンコザクラ、チングルマなどなどのお花畑がいたるところで私達を迎えてくれた。

花を愛でながら清水岳を目指すが、コースタイムよりも実際の歩行時間がかかり、また、最初のルートミスの影響もあり、清水平の手前で休憩を取りB班との合流ポイントとなる鍬温泉分岐へ向かうため戻ること



した。

戻る途中(頂上宿舎手前)の草原ではライチョウの親子がお出迎え。

ライチョウを初めて見たメンバーは「やっと出会えた！」と興奮気味に慌ててカメラを取り出し写真撮影。

子が「ピョピョ」と鳴くと母親が「クエックエツ」と応えてお互いの居場所を確認し合い、一緒になると草むらの中に消えて行った。

さて、ここからは杓子岳、鍬ヶ岳を越えながらの稜線歩き。

既に計画した時間から若干の遅れが出ていたため杓子岳登頂は止め、鑓ヶ岳のみ山頂を踏むこととした。



快晴、そして程よく風も吹いており、周りの山々、雲海、大雪渓などを眺めながら気持ちよく歩く(ちなみに、土曜日だけに大雪渓は蟻の行列)。

鑓ヶ岳の急登では足の痛みもあり、I嬢が一人遅れ始めるがなんとか登頂。山頂からの下りはリーダーの判断でI嬢を先頭にしてI嬢の楽なペースで歩いてもらうことに。すると不思議…今までの遅れが嘘のように快調に歩くようになった。やはり、先頭を歩くと自然とペースが上がるようだ。だからこそ、先頭でゆっくり歩くことができるようになるには相当の経験が必要なのだと思う。

そして、遅れること約30分、鑓温泉分岐でB班と無事合流し、お昼のラーメンを作って食べた。

お昼を食べた後は白馬鑓温泉小屋へ向かってひたすら下る。

前半は可憐な花や壮大な鑓ヶ岳を見ながら気持ちのいい歩行だったが、後半は滑りやすい足元の岩と鎖の連続で緊張感ある行程となった。

宿泊する白馬鑓温泉小屋は標高2,100m地点から湧き出す雲上温泉がウリだ。

寝処にザックを下ろしたら、開放感抜群の露天風呂へ浸かり昨日～今日の疲れを癒す。

そして、温泉の後はビールで乾杯！

夕食を食べ、ホッと一息つくと、男性陣は早々に就寝、女性陣は夜の雲上露天風呂を楽しみ、二日目を終えた。

H・K 記

B班：今日はCLが大西さん先頭に石田・藤原・中田・渡辺さんの順番で山行です。

朝5時に朝食をして、6時に山行開始。今日も天気が最高！真っ青な空と白い雲海、周りの山並が雲海の上に見えて素晴らしい景色です。白馬岳頂上へと歩きだす。頂上に着くと360度の大パノラマ。

劔岳が中心に聳え、立山連峰から北アルプスの名峰が連なり、白山や富士山まで見えて素晴らしい景色にB班の全員が大感動の声を上げ最高でした。

ザックを取りに白馬山荘に戻り身支度を整え出発。A班が向かった清水岳のコースの旭岳山腹トラバース道が見えるがA班の姿は見えない。頂上宿舎の屋根を見ながら、昨日登った大雪渓に蟻のように歩く人々が見える。そこから杓子岳に向かう稜線を雲上山歩。足元には



可憐な花達が多くさん咲き乱れ心が癒され、日本海側の涼しい風に癒されながら歩く。

杓子岳の山頂には登らず、中腹をトラバースし鑓ヶ岳に足を進める。

前方に鑓ヶ岳の急な登りが見える。花や山並みの素晴らしさに癒やされ、呼吸を整えながら山頂へとゆっくり登り、やっと鑓ヶ岳山頂に着く。出迎えてくれた360度の大パノラマ。歩いてきた杓子岳・白馬岳が北側に見え、西側に日本海がうっすら見え涼しい風を運んでくれ、最高の心地よさ。



鑓ヶ岳山頂で行動食を取り、休憩後鑓温泉の分岐点へ足を進める。コマクサの群生を見ながら分岐点

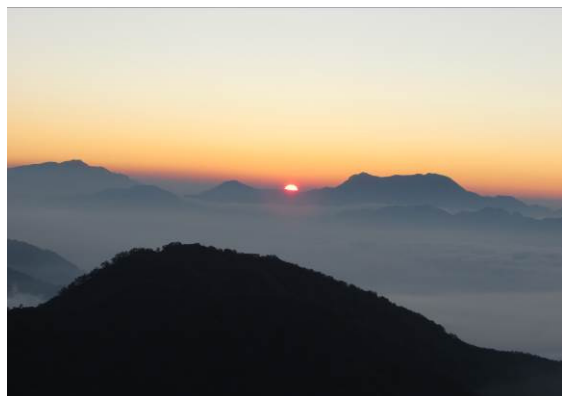
に到着。ここでA班の人達と待ち合わせ。B班は花や、山並みの景色に目を奪われ立ち止まる時間が多かったため予定の場所に到着できなかったみたいでした。A班の人達が到着し昼食にラーメンを作る。賑やかな食事が済んでB班が先に鑓温泉へと歩きだす。東側斜面は風が無く暑い山行になった。癒やしてくれるのはお花畑のたくさん咲きみだれる花々や、鑓ヶ岳の見事な山容を見ながらやっと鑓温泉に到着。皆様お疲れ様でした。

F・N 記

2日 晴れ 鑓温泉小屋から猿倉登山口へ下山し、八方温泉で汗を流し岩舟支所へ

鑓温泉小屋 6:45～小日向のコル 9:30～猿倉登山口 11:30＝白馬第5駐車場 12:00＝八方温泉
12:15/12:55＝ガスト 13:05/13:55＝岩舟支所 P17:30

朝5時に壮大な日の出ショーが始まった。戸隠連峰から高妻・乙妻山、妙高山、火打山、焼山と、名だ



たる名峰のど真ん中から陽が昇る最高のロケーション。下の露天風呂では、沢山の人が温泉に浸かりながら日の出ショーを楽しんでいた。

昨日小屋への到着が遅かったため、朝食の時間が6時と1時間遅くなってしまった。

朝食を食べ、準備を整えストレッチを行って出発する。小屋下のテン場を横切って、登山道を降りて行くと雪渓に出る。アイゼンを付けているパーティーもいたが、さほど傾斜が無いので付けずに降りる。

皆さん最初は、おっかなびっくり慎重に降りていたが、

慣れるとテンポ良く降りて行く。途中まで降りると、左側の広い雪渓を登り返す。さらに小雪渓を2つ横切り、杓子沢の雪渓をトラバースすると展望の良い岩の上に出る。杓子沢に掛かる滝をバックに記念写真を撮る。登山道にはシモツケソウやトリカブト、ウツボグサ等の花々が咲き乱れ疲れを癒してくれる。ところが、ここから小日向のコルまでの登りが意外ときつかった。双子尾根の南側を歩くようになり、風も無く陽に照らされて蒸し暑い。何回も休憩をとり、水分を補給しながら登るので時間がかかってしまった。やっとの思いでコルを越え、少し下った小湿原で休憩をとる。ここからは白馬三山の眺望が素晴らしいが、今日はガスが掛かって山頂部は見えない。



でも湿原にはニッコウキスゲやコバイケイソウ等の花が咲き疲れを癒してくれる。



ここから、九十九折れに下るようになり、下りきると傾斜が緩くなって歩き易くなる。

最後の休憩後、タクシーの時間がギリギリなので、2班に分けて降りることにする。

先発隊は、11:05猿倉着。予約したタクシーはまだ来てなかった。待っている間に、カキ氷とジュースをいただく。11:20に予約のタクシーが到着し、2台に分乗し第5駐車場へ到着した。

八方温泉で三日間の汗を流し、ガストで昼食を食べて岩舟に向かった。

途中、道の駅「中条」で家族へのお土産を買い、無事に岩舟支所に帰着した。

6名が初めての白馬岳だったが、3日間とも晴天に恵まれ最高の白馬三山を堪能出来たと思う。